

道具に関する部首

弓 弓は、弓の形を象った象形字です。音はキュウです。

引は、引き伸ばす意味の丨と弓との会意字で、“弓をひく”のが本義です。また、弓と矢を並べたものと見てもよいと思います。転じて、広く“ひく”意味に用います。音はイン。引力、延引、引退。

弔は、古い形は弓と亻とでできており、弓と人の会意字です。昔は死体を葬ると、鳥や、獣が荒らしに来ました。そこで死者を弔う人は弓を持ってこれを追い払いました。人は弓を持って“とむらう”のです。

弦は、糸の意味の玄と弓との会意形声字で、“弓に張る糸”つまり“つる”のことです。楽器に張るのは「絃」ですが、今では、弦で兼用させています。弦月(半月)、管弦楽。

張は、脹れる意味の長と弓との会意形声字で、“弓をいっぱい引く”のが本義の字です。転じて、弓や琴に弦をかけることを“張る”とも言います。拡張、誇張。

弾は、弦のはじく音を表わす単と弓の形声字で、“弦をはじく”こと

を表わしています。また、単は丸と同じ韻なので、弓と丸との会意字と見ることもできます。この場合は、石弓に用いる“たま”が本義です。今では、前者の意味の「弾力」「弹琴」、後者の意味の「弾丸」「砲弾」、どちらもよく使われています。昔の砲は石弓で、砲弾は石でした。

弧は、半月のように曲がった形の弓と瓜との会意形声字で、音は瓜の変化したコです。数学で、円周の一部を弧と言いますが、そのような形を表わす字です。「弧形」は、言葉としては「瓜形(うり形)」の意味で、文字として「弓形」の意味を加えたのです。

弘は、肱の象形のムと弓との会意形声字で、“弓をかいっぱい引く張る”ことを表わした字です。弓の“ひろくはる”のが本義で、“ひろまる”“ひろめる”の意味に使われています。漢音はコウ、呉音はグです。弘道、弘布、弘通。

強は、弘と虫との形声字で、弘と呼ぶ虫の名が本義の字です。音は弘がなまって、キョウ。古くから同音の「疆」の仮借字として“つよい”という意味に用いられています。

疆は、“つよい弓”が本義の字で、広く“つよい”という意味に用いられ、転じて、“労力”の意味にも使われていましたが、同音の「強」が代

用されるようになって、あまり使われなくなりました。自彊やまず。

矢 **矢**は、弓に使う矢の象形字です。矢は、昔は最も速いものだったので、部首としては“はやい”という意味によく使われます。光陰矢のごとし。

知は、矢のように速く、言葉が口から出てくる、という意味で、**矢**と**口**の会意形声字です。音は**矢**がなまったチです。速く言えるということは、何でもよく知っているからである、というので、“しる”という意味を表わしました。

短は、小さい意味の**豆**と**矢**との会意形声字で、“小さい矢”、つまり“みじかい”という意味を表わしたものです。音は豆が変化してタンです。短気、短所。

矯は、先の曲がっている意味の**喬**と**矢**の会意形声字で、“曲がった矢を**ためる**”という意味の字です。矯正。

医は、箱の意味の**匚**と**矢**との会意字で、“矢を入れる器具(ゆぎ)”が本義の字です。今では醫の意味に使われています。

醫は、**医**と**殳**と**酉**の会意字です。酉は薬用酒。薬を用いて病気を退治する、という意味の字です。医も■も武器で、病気を退治すると

いう意味を表わしています。

刀 **刀**は、“かたな”の形を象った象形字です。片刃の彎曲したものです。音はトウ。

刃は、刀の切るところ、つまり“は”を示した指事字です。音は、漢音ジン、呉音ニン。白刃、刃傷。

分は、刀で物を二つに切り離した形を表わした、**刀**と**八**との会意字です。“わける”こと。転じて、“わかれる”こと。分配、分裂。また、「身分」「気分」という使い方もあります。

切は、切り落とす時の音を表わす**七**と**刀**との形声字で、“刀で物をきる”ことを表わした字です。音は七が変化してセツ、呉音はサイ。切斷、一切。

刈は、草をかる意味の**乂**と**刀**との会意形声字です。刈は俗字です。

刊は、突き刺す意味の**干**と**刀**との会意形声字です。昔、版木に文字をほりきざんで印刷したので、“書物を出版する”ことを刊という字で表わしました。刊行、月刊。

刑は、**井**と**刀**との形声字で、“斬刑”の意味の字です。井という発音

の言葉には、「形」「型」があり、“きちんと整ったタイプ”を意味しているようです。従って、刑は、“法に照らして処断する”という意味がその発音から汲み取れます。刑法、刑罰。

初は、衣と刀との会意字です。衣類は、布を刀で裁断することから始まるので、“はじめ”の意味を衣と刀とで表しました。最初、初期。

別は、冎の変形した冎と刀との会意字で、“骨から肉を切り離す”という意味の字で、“わける”が本義の字です(160 頁、列と同義)。今では、“人とわかれる”意味に使われます。区別、別離。また「別宅」「別状」などの使い方もあります。

刺は、“とげ(一)のある木”の意味の束と刀との表意形声字です。“とげでさすように刀でさす”という意味で、“さす”ことを表わしました。セキという音もあります。

剛は、綱のもつ“大きい”“太い”などの意味の岡と刀との会意形声字で、“大きくてがっしりとした刀”という意味の字です。転じて“つよい”“かたい”などの意味に用いられます。剛勇、剛胆。

劑は、調える意味の齊と刀との会意形声字です。医者のことを「刀圭家」と言いますが、薬を調合するさじを“刀圭”というのです。つまり、

“さじで薬を調合する”ことが劑の本義で、今は、“調合された薬”の意味に用いられています。調劑、藥劑、強心劑。

割は、傷つけそこなう意味の害と刀との公立形声字です。“刀で傷つける”という意味の字で、“さく”“わかっ”こと。割讓、分割。音は害がつかってカツ。

剩は、“切っては上へ上へと乗せる”意味の字で、物の豊富にあることを表わした、乗と刀との会意形声字です。“あまる”という意味に使われます。余剩、過剩。

前は、古体は𠂔です。“岸につないである舟のともづなを切る”という意味の字で、“舟の前進すること”を表わした字です。舟月の月と、止める意味の止と刀との会意字です。

到は、いたる意味の至と刀との会意形声字で、“刀が相手の体に至る”という意味で、“とどく”ことを表わした字です。到着、到達、用意周到。

制は、朱と同じく木の象形である𠂔と刀との会意字で、“木を切って物を作る”という意味の字。音はセイ。“たちきる”“つくる”が本義です。制裁、制作。「制限」「制御」は「掣」の意味の仮借です。

掣は、“制作しているのを手でおさえる”ことを表わした字で、**制**と**手**との会意形声字です。掣肘、牽掣。

刷は、人の意味の**戸**と**布**と**刀**の会意字で、“人が布と刀とを持って仕事をする”ことを表わした字です。汚れた所をふき、落ちない所は削り、“きれいにする”ことが本義です。刷新。転じて“こする”意味。刷子(ぶらし)、刷毛(はけ)。「印刷」も“こする”意味です。

券は、古体が**券**で、二つに分けて、それぞれに所持する“わりふ”を表わした字です。相互の約束として取りかわすものの名称に使われます。証券、株券、乗車券。

刻は、草の根の象形である**亥**と**刀**との会意字で、薬草の根を“きざむ”ことを表わした字です。「彫刻」「時刻」の意味から転じて、「深刻」「苛刻(酷)」とも使われます。

戈は、いくさ道具の“ほこ”を象った象形字で、武器の総称として用いられ、また、“戦争”の意味にも使われます。「干戈」は、武器の総称であり、また戦争という意味でもあります。

武は、**戈**と**止**との会意字です。“戦争を防止するもの”という意味の

字です。つまり、武とは、相手を倒すためのものではなくて、相手の侵略を未然に防ぐためのものだということです。核兵器も、使うためのものではないという、武の本義をぜひ銘記してもらいたいものです。

戦は、**単**と**戈**との形声字で、“武器をもってたたかう”という意味の字です。戦争は恐ろしいものですから、“恐れおののく”という意味にも使われます。戦々競々。

戯は、猛獣を意味する虞の略字の**虚**と**戈**との会意字で、“武器をもって猛獣をあやつる”という意味の字です。“猛獣つかいの芝居”が本義で、“たわむれる”意味に使われます。戯曲、演戯、遊戯。

戍は、**人**と**戈**との会意字で、“武器を持つ人”が本義です。転じて、“まもる”意味になります。戍卒、衛戍。昔、陸軍病院のことを衛■病院と言いました。

成は、戈と同じ意味の**戍**と**丁**との会意形声字です。丁は、釘の象形で、テイの音は、釘を打つ音を表わしたものです。成は、“武器を揮って侵略者を平らげる”こと。成功。転じて“なしとげる”という意味。音は丁テイが変化してセイ。呉音はジョウ。成就じょうじゅ。

我は、古体は**𠄎**で、先が三つに分かれたほこの象形です。“わ

れ”の用法は仮借。“わが身を守るもの”であるから、転じて“われ”を表わしたとする説もあります。

舟

舟は、舟の形を象った象形字ですが、今の字形は、たてになっています。音はシュウ。

船は、沿の意味の彳と舟との会意形声字です。“流れに沿って下る舟”という意味の字です。昔、函谷関以東では、流れがゆるやかで上り下りできたので、舟と呼び、函谷関以西では急流のため、下りにはかえなかつたので、船と呼んだと言います。音は舟 syu と彳 en とでセン sen になりました。

艇は、艇(丸木)の意味の廷と舟との会意形声字で、“丸木舟”という意味の字です。転じて、“細長い形の舟”を言います。短艇(ボート)、潜水艇。

「艦」「舶」「航」「艙」は、それぞれ第2章の傍の項言説明しておきました。

車

車は、二輪車の形を象った象形字です。音はシャです。

輛は、二つの意味の兩と車との会意形声字です。車は車輪が二つ


あって一台だということで、“車一台”を表わした字です。また、車を数える時に「一輛、二輛」と言います。今では扁を省いて「両」で代用しています。

軒は、ふせぐ意味の干と車との会意形声字です。“戦車”が本義の字です。「戎軒」(戦車)。矢を防ぐように覆いが設けられていて、転じて“覆い”の意味になり、“家ののき”の意味に使われるようになりました。太夫以上の身分の者の乗る車を軒と言うのは、日光や雨風を防ぐ“覆い”のある車という意味です。

軟は、欠と車の形声字で、車の振動をやわらげるため、車輪に蒲をまきつけた車のことです。転じて、物の“やわらかい”ことを表わすのに使われます。軟骨。

軸は、車のじく(𨋖)の象形である由と車との会意字です。“車の心棒”です。転じて「筆の軸」「マッチの軸」「掛軸」などとも使われます。

音はジク。

由は、で、果物と木とを結ぶ部分を表わした字です。これによって木から栄養を受けて成熟するので、“たよる”“よる”という意味を表わしました。由来、理由。漢音はコウ、呉音はユ。

転は、轉が本字。回る意味の旋の仮借である專と車との形声字で、“車の回る”ことを表わした字です。転じて、“場所が移る”意味に使われます。回転、移転、転任。

較は、組み合わせる意味の交と車との会意形声字です。車の乗る所に、つかまえるために設けられた横木のことです。左右にあることから“比べる”という意味に使われるようになりました。音は交、またはカク。較著、比較。

軍は、古体の𠂔が示す通り、戦車を中心に兵が行動するのが、軍の常だったので、車を囲む形で、軍隊を表わしました。

軌は、車と九との形声字で“車輪の通ったあと”“わだち”のことです。このわだちの間隔がいつもきちんと正しいところから、「軌範」という使い方が生よれました。音は九が変化してキとなります。「軌」は、同音同義の字です。

轄は、車と害との形声字で、車輪が軸からはずれて災害を起こさないように、車軸にはめ込む“くさび”が本義の字です。転じて、広く、“災害を起こさぬよう取り締まる”ことに使います。統轄、管轄。